

過疎地・水資源等対策特別委員会記録

開催日時 平成23年3月2日(水) 10:33~10:59

開催場所 第1委員会室

出席委員 6名

国中 憲治 委員長
田中 惟允 副委員長
小林 茂樹 委員
高柳 忠夫 委員
今井 光子 委員
川口 正志 委員

欠席委員 2名

新谷 紘一 委員
秋本登志嗣 委員

出席理事者

影山 地域振興部長
廣野 文化観光局長
武末 医療政策部長
富岡 農林部長
川崎 土木部長
浅井 水道局長 ほか、関係職員

傍聴者 なし

議 事

(1) 2月定例県議会追加提出予定議案について

<質疑応答>

○国中委員長 ただいまの報告、説明のありましたことに限りまして、質疑があればご発言をお願いいたします。

○今井委員 基本的なことで教えていただきたいのですが、南和広域連合の解散に伴って、ふるさと市町村圏基金が1億円戻ってくることになっておりますけれども、最初、奈良県は幾ら持ち出しをしたのでしょうか。それで、幾ら返ってくるのか、その辺を教えてくださいましたらと思います。

それから林業関係で、例えば、森林の境界明確化の緑の産業再生プロジェクトがありま

すけれども、補助対象事業費の減ということでここに予算が出ております。奈良県の林業の再生の条例の中では、森林区分の明確化をするのが一つの大きな目玉ではないかと思っておりますけれども、こうした状況になってきているのはどういうことでこんなふうになっているのか、わかりましたら教えていただきたいと思います。

それから、「平成23年3月過疎地・水資源等対策特別委員会資料」の4ページの地域振興費で11億円、27の市町村に県が支援をすることで予算を組まれていますけれども、18の市町村が事業のおくれによって、まだ執行されていない状況がございますが、このおくれの原因は、市町村のところで職員の数が減って、この運用を具体化することができていないのか、何が原因で実際に市町村は財政難でどこも困っている状態ですけれども、なぜこうした状況になっているのか、その点をきちとつかんで支援をしないと、今度、県は南和振興局をつくりますけれども、いろいろやっても受け皿のところで問題があれば執行できないことが起こるのではないかと感じているのですが。この事業主体のおくれは、どういうことが原因だったのか、そのあたりを教えていただきたいと思います。

○長岡市町村振興課長 今、2つの点、ご指摘をいただいたと思います。

南和広域連合の件でございますけれども、これはふるさと市町村圏基金は全部で10億円ございまして、9億円が市町村で県が1億円を出しております。この果実で事業をしてきたということでございますので、県は1億円を出したものをそのまま返していただくと。9億円については、市町村にそれぞれ出資をされた割合で返還するという形になっております。

それから、市町村振興臨時交付金の繰越の件でございますけれども、これも初めての制度ということで、平成21年度の剰余金を活用して9月補正でお願いをさせていただいた事業でございます。そういう意味で、市町村補正予算であれば6月以降は全部オーケーですという形をお願いしたのですけれども、何せ初めての事業でございますので、市町村のほとんどは12月以後の補正予算で計上され、事業が実際に行われたのがことしに入ってからというのがほとんどで、約半分近くが繰越になったと。どうしても決算剰余金を活用していますので、補正の時期が県の9月以降になりますので、それを受けてという形になりますので、市町村の事業の実施がどうしてもおくれる形で繰越が多数発生している状況でございます。以上でございます。

○七尾林政課長 繰越についてのお尋ねでございます。

森林境界の明確化で繰越が発生しております。これにつきましては、事前調査におきま

して、関係者との調整に不測の日時を要しまして、現地作業開始が11月ごろにずれ込みまして、加えて12月末の積雪がひどく、現地調査の実施開始ができなくなったことによるおくれでございます。それと同時に、木材生産林と環境生産林に分ける区分設定の方の繰越もでございます。それに関連しまして、森林区分の方は、関係機関との調整に不測の日時を要したことでございます。奈良県森林づくり並びに林業及び木材産業振興指針を策定いたしまして12月に公表させていただきました、その策定につきまして、細部にわたりまして十分検討を加えたことによりおくれが生じたことでございます。それにより、市町村委託等がおくれたことが要因でございまして、設定作業につきましては、関係市町村と十分調整しながら進めておりまして、6月をめどに完了する見込みで進めております。それで、区分に基づきまして実施する事業の進捗につきましては、支障が出ないように努めてまいり所存でございます。以上でございます。

○今井委員 はい、ありがとうございます。

このふるさと市町村圏基金のことですけれども、果実を使ってという表現をなさいましたが、要はその利息を運用したということだと思いますが、実際幾らぐらいこの基金によって運用されたのでしょうか。

○長岡市町村振興課長 今詳しい資料を持っていないのですけれども、毎年発生する利息を使って事業をされておりますので、年によって最近ですと、もう非常に利率が低くなっておりますのでほとんど発生していないということでございます。当初、平成9年ぐらいにつくったときには、それなりの利息を発生をして市町村で事業ができた状況になっております。

○今井委員 また後で資料をいただけたら。

○國中委員長 資料をそれでは後で。

○長岡市町村振興課長 今まで行った具体的な事業の資料を出させていただきます。

○國中委員長 ほかにございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

ほかになれば、質疑を終わります。

閉会に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げたいと思います。

当委員会は、このメンバー構成で恐らく今期終わるだろうと思います。最終になると思うんですが、各委員の皆さん方におかれましては、過疎地対策、そしてまた、水資源対策で貴重なご意見を出していただきました。

また、理事者の皆さん方には、真摯に委員の発言に対して、内容に対して受け答えをしていただきました。本当にありがとうございました。おかげさまで当委員会、効果的に運営をさせていただきましたことを御礼申し上げて、委員長、副委員長の御礼の言葉にかえたいと思います。どうもありがとうございました。

それでは、これもちまして閉会といたします。どうもご苦労さまでございました。